

環境像とめざすべき環境の姿

1. 環境像

(第二次計画までの環境像の考え方)

- 市民生活や事業活動などの都市活動に伴い、環境に様々な負荷を及ぼしている。
- これらの都市活動は、先人から受け継いだ限りある環境資源のもとに成り立っている。
- さらに、地球の環境や資源はアジアをはじめ世界の人々や将来の世代とも共有している。

第二次計画までの環境像：ときを超えて人が環境と共に生きるまち

第二次計画での環境像は、21世紀全体を見据えた環境面からの本市のあるべき姿であり、普遍的な表現となっている。

○第三次計画の環境像を考えるうえで関連するキーワード

「中長期的視点」

→ 中長期的に変化を遂げつつ構築される持続可能な社会。

「広域的な視点」

→ アジア、九州、自治体間などと広域的に連携した社会。

「今後の人口増」

→ 前提条件として2035年までは人口増加傾向、これに伴うインフラ整備が必要な社会(熱供給インフラなど)。さらにその先は人口減少に転じる社会。

「ネットワーク」

→ 資源のネットワーク、未来の世代とのネットワーク、交通ネットワークが構築された社会。

「山地・緑のつながり」

→ 山地と市街地をつなぐ緑のネットワーク。

「越境汚染」

→ PM2.5など、国外から越境して飛来する汚染物質に対応した社会。

「国際的人材育成」

→ 福岡市の多く訪れている留学生とのコミュニケーション。

「環境との譲り合い」

→ 人と自然が対峙するのではなく、環境と折り合い、譲り合った社会。

「市民等とのコミュニケーション」

→ 自主参加を促す、市民・事業者等とのコミュニケーション

「安全」

→ 持続可能な社会の前提。

2. めざすべき環境の姿

「環境像」での基本的な考え方・理念を受け、環境像を実現する上での具体的な目標を定めるもの。

●低炭素社会の姿

<キーワード>

再生可能エネルギー，自律分散型エネルギー，建築物の省エネ性能向上，省エネ(原単位当たりの効率改善)，減エネ(エネルギー消費の絶対量の削減)，低炭素型交通網，まちづくり，自主行動 等

- ・新世代環境都市ビジョン(2050年の将来像)
→ 「創エネ・省エネ・蓄エネ」によるエネルギー地産地消のまち・ふくおか

●自然共生社会の姿

<キーワード>

生物多様性，生態系サービス，里地里山，森林，河川，博多湾，食文化，生物共生圏，いのちのネットワーク 等

- ・新世代環境都市ビジョン(2050年の将来像)
→ 豊かな自然と共生し，その恵みに支えられ，命をつなぐ未来都市・ふくおか
- ・生物多様性ふくおか戦略(100年後の将来像)
→ 市民が多様な生き物とその生息地である自然環境の保全・再生・育成に取り組み，百年後も豊かな自然と共生し，その恵みに支えられ，命をつなぐ未来都市「ふくおか」

●循環型社会の姿

<キーワード>

発生抑制・再使用・再生利用，適正処理，地域循環圏，食糧・資源 等

- ・新世代環境都市ビジョン(2050年の将来像)
→ 資源を大事に，繰り返し使う循環のまち・ふくおか
- ・新循環のまち・ふくおか基本計画(テーマ)
→ 元気が持続する循環のまち・ふくおか

●快適で良好な生活環境の姿

<キーワード>

大気・水環境の保全，景観，ヒートアイランド，生活マナー，モラル，気候変動への適応 等

- ・新世代環境都市ビジョン(2050年の将来像)
→ 健康で快適なまち・ふくおか
※ 「新世代環境都市ビジョン」を参考に，気候変動への適応を追加する。